

5 世界銀行炭素基金 (PCF) への参加

1 PCFの概要

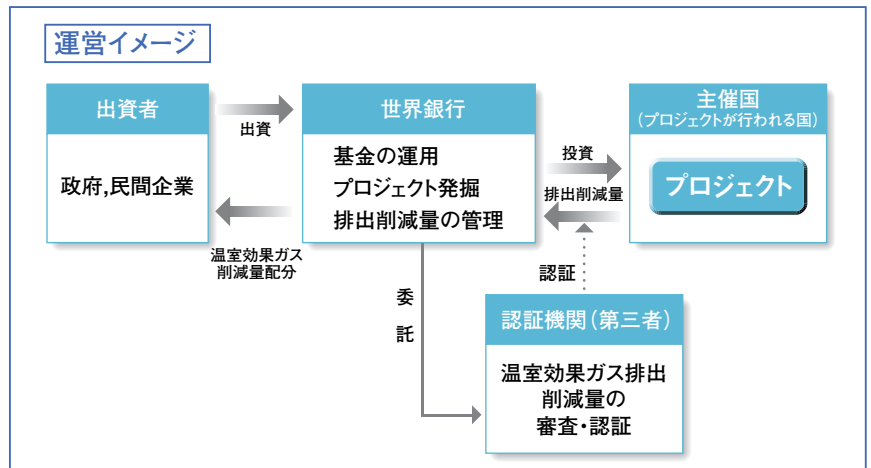
世界銀行炭素基金 (PCF: Prototype Carbon Fund) は、世界銀行が温室効果ガス削減の国際的取り組みとして、2000年1月に設立した投資ファンドです。

PCFは、出資者から集めた資金を、発展途上国や市場経済移行国(旧東欧)における温室効果ガス削減プロジェクトに投資し、それによって得られた温室効果ガス削減量を出資者に配分するものです。

九州電力は、PCFの設立当初からこれに参加しており、2002年度は当初の500万ドルに加え、300万ドルの追加出資を決定しました。

■ 概要

運用期間	2000年1月～2012年12月
資金規模	180万ドル
九州電力の出資額	800万ドル(2002年11月に、500万ドルから増資)
出資者	6か国政府、17企業(九州電力を含む)



2 PCFの運用状況

PCFは、世界各国で30～35件程度の温室効果ガス削減プロジェクトに投資する計画にしており、現在右表のようなプロジェクトへの投資を合意しています。これまでに、チリの小水力プロジェクトから約11万トン-CO₂の排出削減量が発生し、出資比率に応じて4,512トン-CO₂が九州電力へ配分されています。

■ 排出削減量購入合意済みのプロジェクト概要

実施国	プロジェクト概要
ラトビア	廃棄物処理場でのメタン回収・発電
ブラジル	鉄鋼生産への木炭使用(石炭・コークスの代替)
チリ	小水力発電所建設(石炭・天然ガスの代替)
ウガンダ	小水力発電所建設(ディーゼル発電の代替)
コスタリカ	水力・風力発電の開発

3 京都メカニズムの概要

京都議定書の目標達成のために認められている、国際的に協調して各国が温室効果ガス削減を実現する制度です。

日本のように、過去の省エネルギー努力により、相対的に温室効果ガス削減コストが高い国は、京都メカニズムの活用により、温暖化対策に伴う経済への影響を緩和することが可能になると考えられます。

■ 京都メカニズムの概要

共同実施 (Joint Implementation)	先進国同士が共同で排出量削減・吸収量増大プロジェクトを実施し、その削減分を配分
クリーン開発メカニズム (Clean Development Mechanism)	先進国が途上国の排出量削減プロジェクトに協力し、先進国がその削減分を譲受
排出権取引 (Emission Trading)	先進国間で排出枠を売買

■ 対策ごとのCO₂削減単価比較

対策	CO ₂ 削減単価(円/t-CO ₂)	備考
風力発電量の導入促進*	12,000	火力発電を風力発電で代替
火力発電の燃料転換*	4,400	石炭による発電をLNGで代替
廃棄物発電の導入促進*	3,800	既存電源による発電を廃棄物発電で代替
PCF	600	PCF仕上がり価格(5ドル)で想定

* 中央環境審議会地球環境部会資料(目標達成シナリオ小委員会:2001年6月)より抜粋
 なお、原子力発電は、発電時にCO₂を排出せず発電単価が安価なことから、追加的な削減単価が不要な最も優れたCO₂削減対策となります。